

令和3年7月29日

令和3年度第2回

交野市文化財保存活用地域計画協議会

資料

生涯学習推進部社会教育課文化財係

資料一覧

資料1 アンケート調査等の結果報告及び施策の方向性について

資料2 交野市文化財保存活用地域計画の方向性

アンケート調査等の結果報告及び施策の方向性について

アンケート調査結果等からの現状については、

- ★（黒星）は市民アンケート調査結果を示し、
- ☆（白星）は団体アンケート調査・団体ヒアリング結果を示し、
- ◆（黒菱）は小学校（小学生の保護者）アンケート調査の結果を示します。

課題については、

- （黒丸）は今回の調査結果等から導き出された課題を示し、
- （白丸）は事務局の既往調査（日常業務等）から導き出された課題を示します。

整理 1

【アンケート調査結果等からの現状】

- ★特に必要だと思われる文化財事業として「自然遺産の保護」が約 5 割と最も多く、次いで「歴史的建造物の保護・公開」が約 4 割、「七夕のふるさと振興のための調査」が約 3 割と多い。一方、「身近な石仏」、「民具」、「だんじり」といった人々の生活に密着した文化財の保護事業への関心は約 1 割前後と少ない。
- ☆特に必要だと思われる文化財事業として「自然遺産の保護」や「歴史的建造物の保護・公開」、「集落・寺院の発掘調査や整理」がそれぞれ約 7 割と多い。
- ☆歴史的な建造物が残る古い町並み、だんじり、交野節など各地区に残る文化財の調査が十分でない。
- ☆未整備の文化財（古墳等）があり、調査が必要であるとする地元意見があった。
- ☆古い蔵等の個人所有の文化財調査（古写真・古文書・民具等）が十分でない。

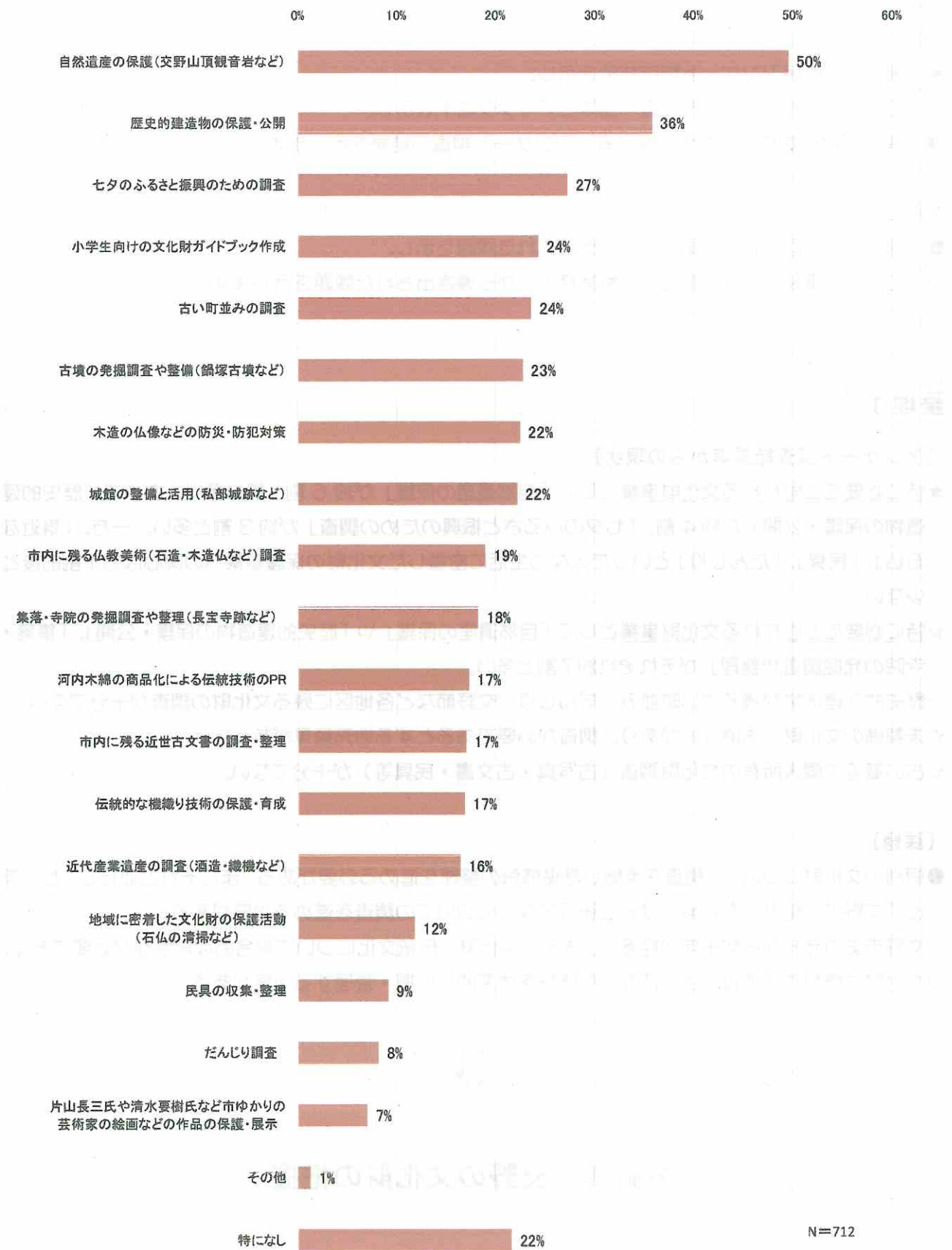
【課題】

- 個別の文化財について、調査を実施し基礎情報の整理を進める必要がある。またそれと並行し、七夕など「交野の文化財」を特徴づける伝統行事などについての調査を進める必要がある。
- 交野市史の発刊から数十年が経過し、本市の文化財や伝統文化について総合的な再整理が必要である。
- 文化財の情報や各調査により把握した情報を体系的に把握・管理する必要がある。

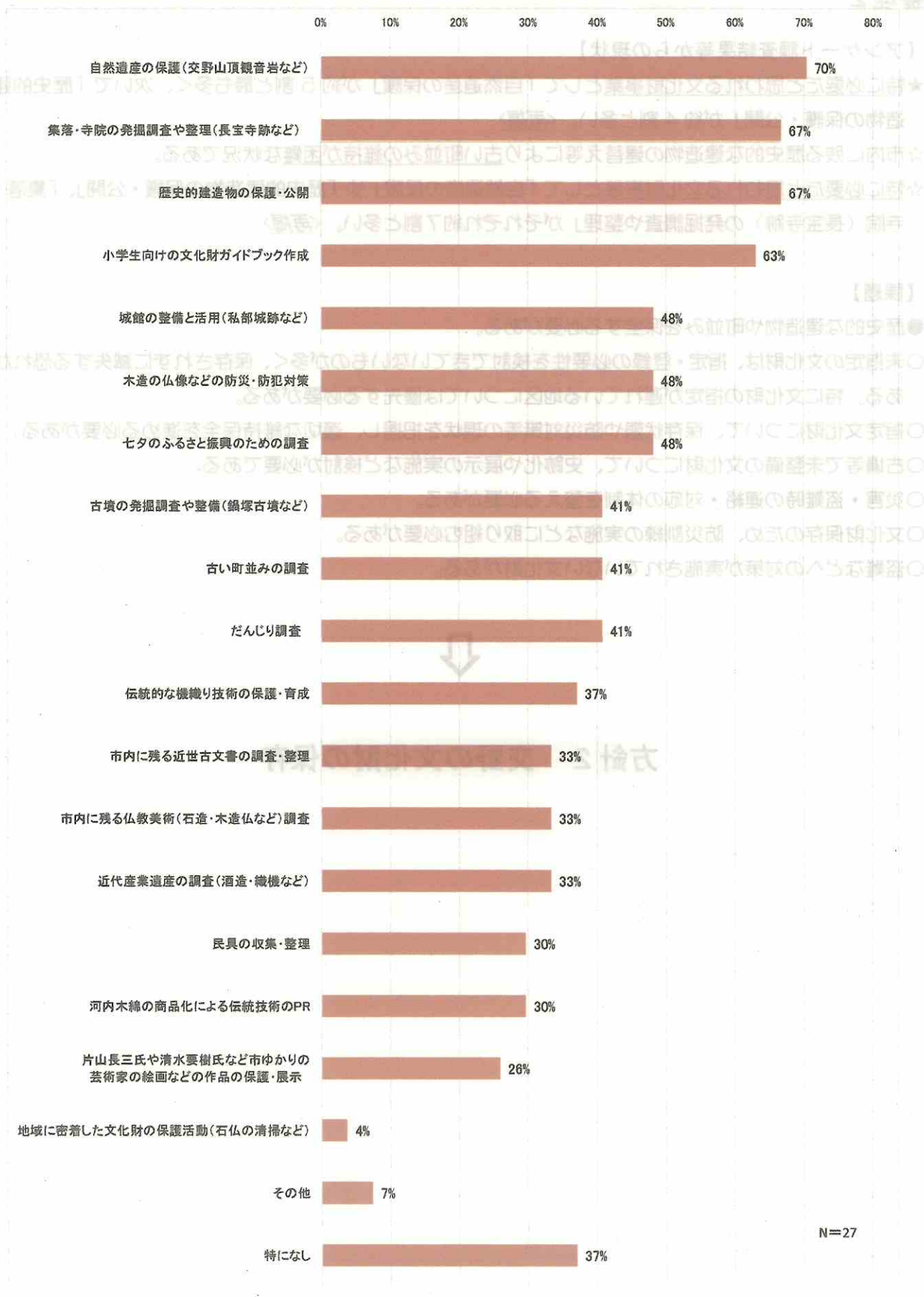


方針 1 交野の文化財の把握

★特に必要だと思われる文化財事業（市民アンケート調査結果より／複数回答）



☆特に必要だと思われる文化財事業（団体アンケート調査結果より／複数回答）



N=27

整理 2

【アンケート調査結果等からの現状】

★特に必要だと思われる文化財事業として「自然遺産の保護」が約 5 割と最も多く、次いで「歴史的建造物の保護・公開」が約 4 割と多い。〈再掲〉

☆市内に残る歴史的な建造物の建替え等により古い町並みの維持が困難な状況である。

☆特に必要だと思われる文化財事業として「自然遺産の保護」や「歴史的建造物の保護・公開」、「集落・寺院（長宝寺跡）の発掘調査や整理」がそれぞれ約 7 割と多い。〈再掲〉

【課題】

- 歴史的な建造物や町並みを保全する必要がある。
- 未指定の文化財は、指定・登録の必要性を検討できていないものが多く、保存されずに滅失する恐れがある。特に文化財の指定が遅れている地区については優先する必要がある。
- 指定文化財について、保存状態や防災対策等の現状を把握し、適切な維持保全を進める必要がある。
- 古墳等で未整備の文化財について、史跡化や展示の実施など検討が必要である。
- 災害・盗難時の連絡・対応の体制を整える必要がある。
- 文化財保存のため、防災訓練の実施などに取り組む必要がある。
- 盗難などへの対策が実施されていない文化財がある。



方針 2 交野の文化財の保存

整理 3

【アンケート調査結果等からの現状】

★特に必要だと思われる文化財事業として「自然遺産の保護」が約 5 割と最も多く、次いで「歴史的建造物の保護・公開」が約 4 割と多い。〈再掲〉

★文化財を活用したイベント等への参加について、「参加したくない」が約 1 割と少なく、約 8 割が何らかのイベント等に参加したいと思っている。なかでも「文化財を学べる講座・見学」や「文化財をめぐる健康ウォーキングツアー」がそれぞれ約 3 割と人気があるが、「文化財ボランティアの養成講座」への関心が低い。

☆特に必要だと思われる文化財事業として「自然遺産の保護」や「歴史的建造物の保護・公開」、「集落・寺院（長宝寺跡）の発掘調査や整理」が各々約 7 割と多い。〈再掲〉

☆史跡などの看板に外国語による説明がない。

◆文化財を活用したイベント等への参加について、「参加したくない」が 11%と少なく、約 9 割が何らかのイベント等に参加したいと思っている。なかでも「子どもと一緒に参加できる歴史体験教室」が 60%と最も人気が高く、次いで「機織り教室」と続く。

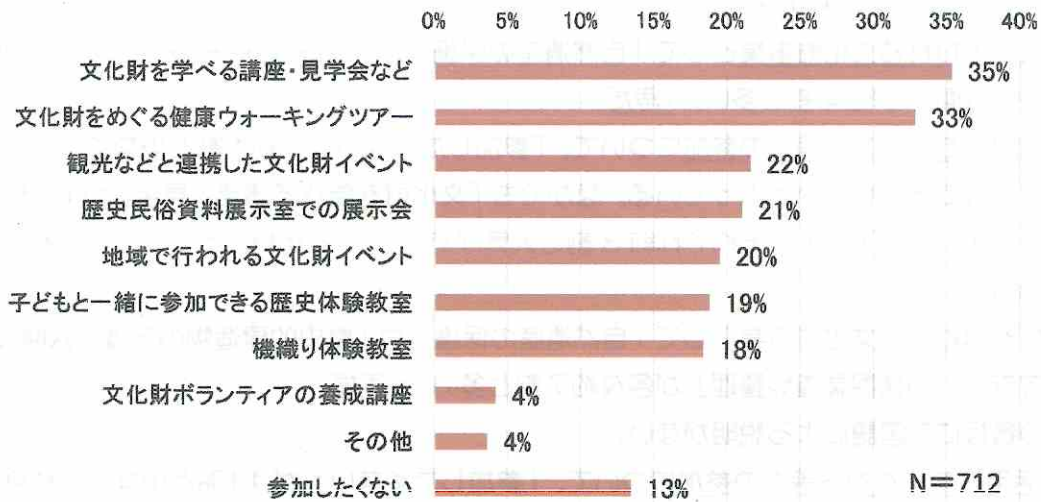
【課題】

- 行事やイベントへの参加者の高齢化や固定化が進み、若い世代にも関心を持たれるよう、体験型プログラムの充実や既存の展示方法の見直しなどが必要である。
- 観光への展開を図るため、地元商店街などと連携した受入れ体制が必要である。
- 大阪万博に向けた外国人観光客の受入れ体制が必要である。

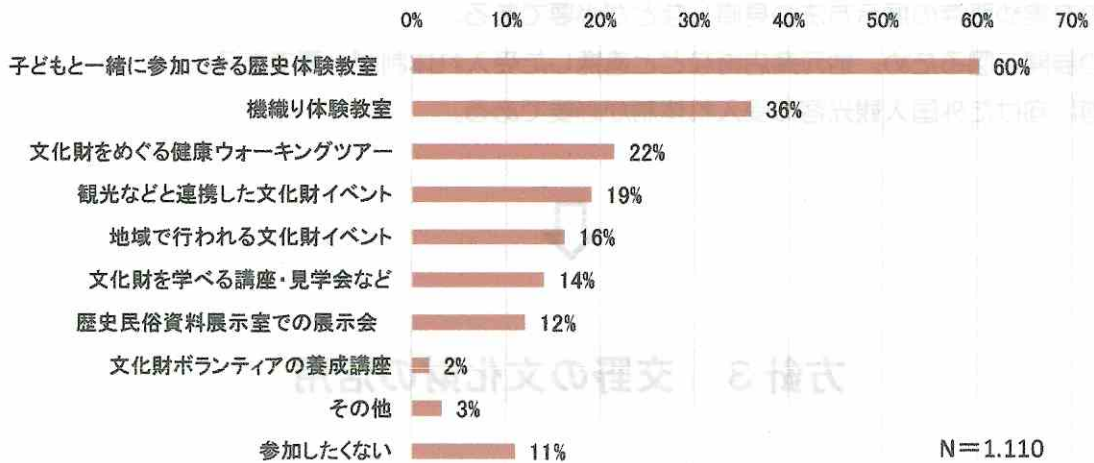


方針 3 交野の文化財の活用

★文化財を活用したイベント等への参加（市民アンケート調査結果より／複数回答）



◆文化財を活用したイベント等への参加（小学校アンケート調査結果より／複数回答）



整理 4

【アンケート調査結果等からの現状】

- ★市内の文化財の認知度は国登録文化財である「山野家住宅（山野酒造）」が高く約 8 割であるが、見学経験は国宝の「薬師如来坐像」が約 4 割と多い。また、「坊領弥生時代住居跡」や「新宮山八幡宮」「星田旭縄文時代住居史跡」などの石碑についてはそれぞれ 5 割以上が「知らない」と認知度が低い。
- ★市内や地域の文化財で興味がある文化財として「歴史的建造物」が約 6 割と最も多いが、市内の文化財に「興味・関心がない」と約 1 割が回答しており、その理由として「実際の生活に直接関係がない」が約 5 割と最も多く、次いで「身近でない」や「交野の文化財や歴史について知らない」ことをあげている。
- ★文化財に関する情報収集は、「特に得ていない（得たいと思わない）」が約 1 割と少なく、約 8 割が「広報等市の刊行物」から得ているが、情報発信の充実については、「発信されていない」が約 4 割と多い。
- ☆市内の文化財の認知度は団体の方が一般市民よりも高く、周知効果は認められる。
- ☆歴史民俗資料展示室における小学校 3,4 年生の授業支援には、今後、展示室の見学や体験とオンライン授業を併用し進める必要がある。
- ◆市内や地域の文化財で興味がある文化財として「祭りや伝統行事」や「歴史的建造物」がそれぞれ 50% と多いが、市内や地域の文化財に「興味・関心がない」と 17% が回答しており、その理由として「交野の文化財や歴史について知らない」が 38% と最も多く、次いで「身近でない」や「時間に余裕がない」ことをあげている。

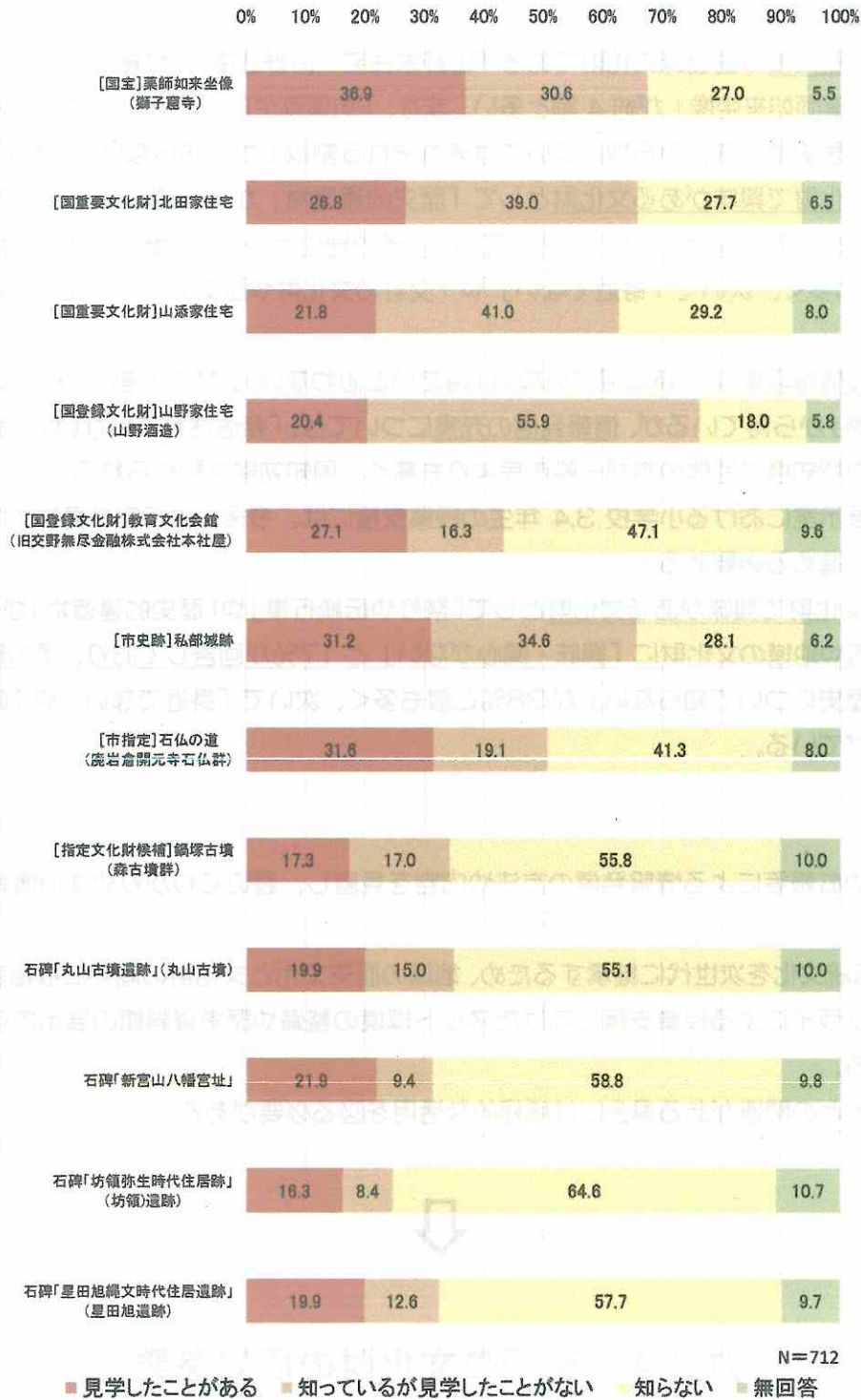
【課題】

- ホームページや広報等による情報発信の方法や内容を見直し、適切でわかりやすい情報発信に努める必要がある。
 - 市の文化財・伝統文化を次世代に継承するため、地域の歴史文化と文化財の周知に取り組む必要がある。
 - 小学校へのオンラインによる授業支援に向けたネット環境の整備や歴史資料館の展示内容の見直しを進める必要がある。
- 大河ドラマなどとの関連がある場合には積極的な活用を図る必要がある。

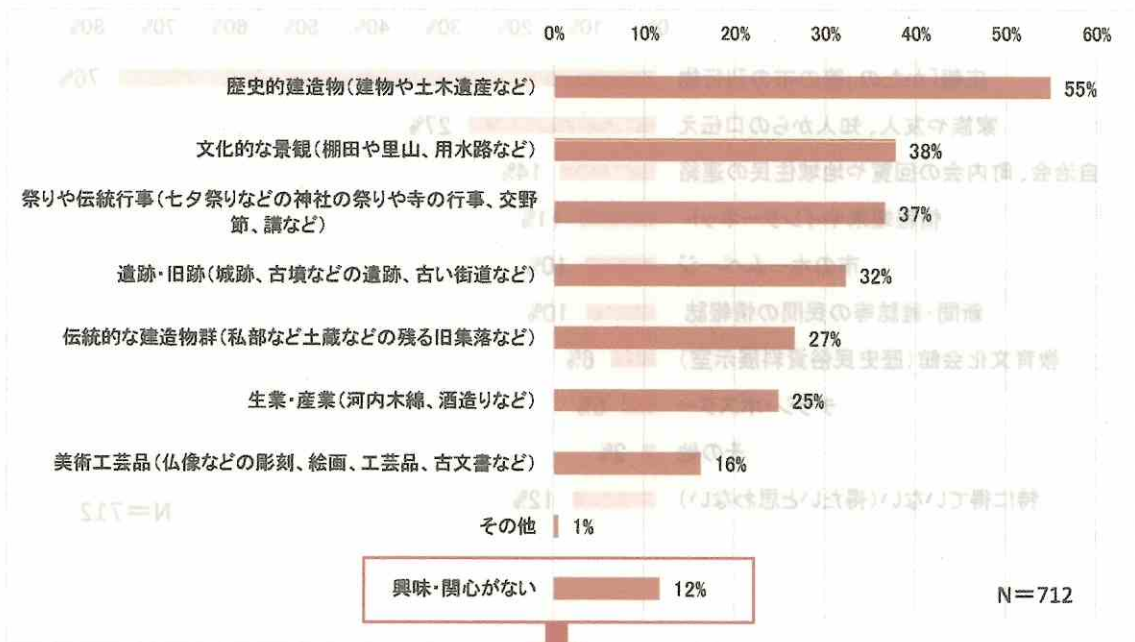


方針 4 交野の文化財の周知啓発

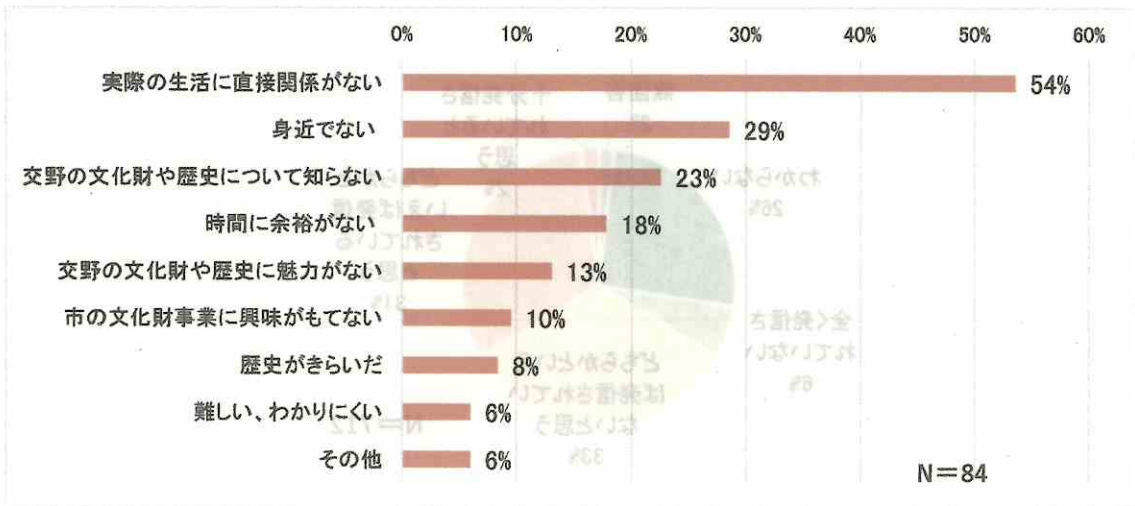
★市内の文化財の認知度（市民アンケート調査結果より／複数回答）



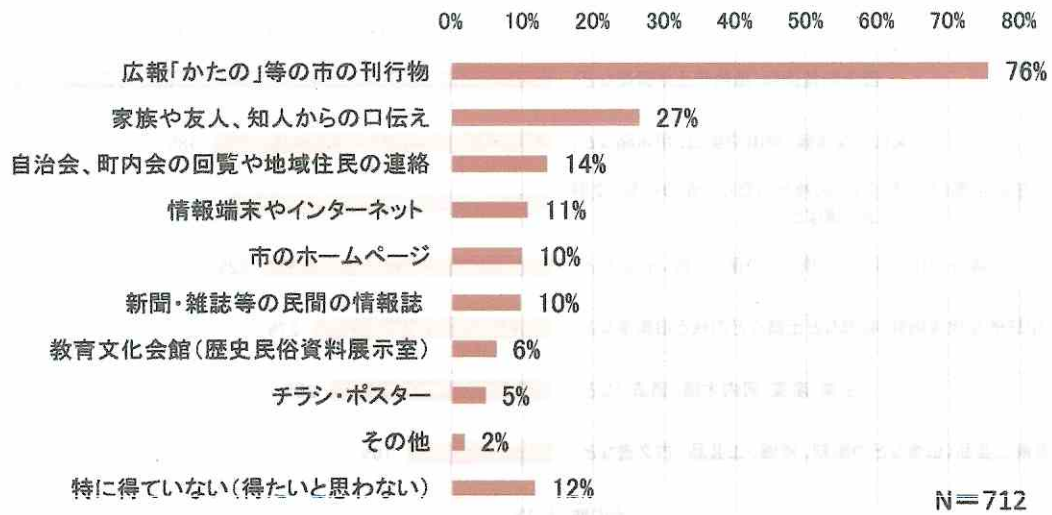
★市内や地域の文化財に興味がある文化財（市民アンケート調査結果より／複数回答）



★また、市内の文化財に「興味・関心がない」理由（市民アンケート調査結果より／複数回答）

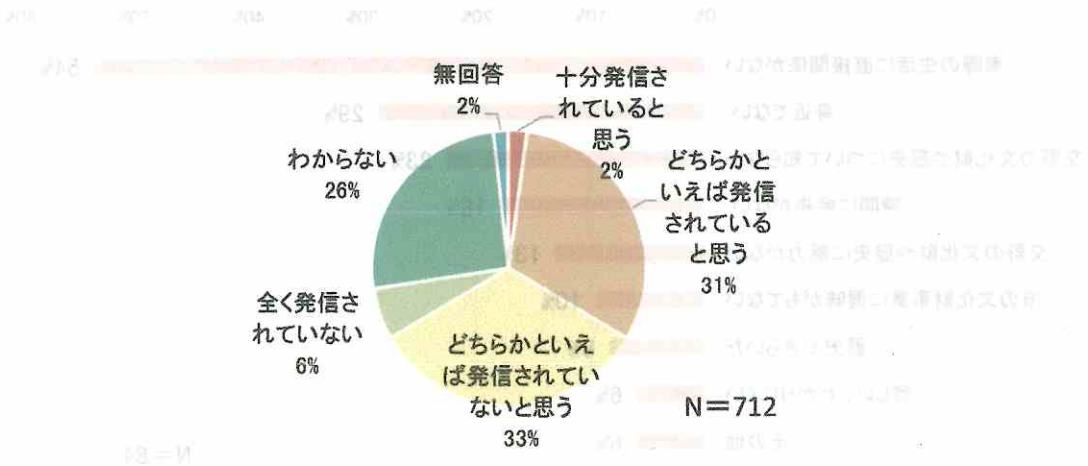


★文化財に関する情報収集（市民アンケート調査結果より／複数回答）

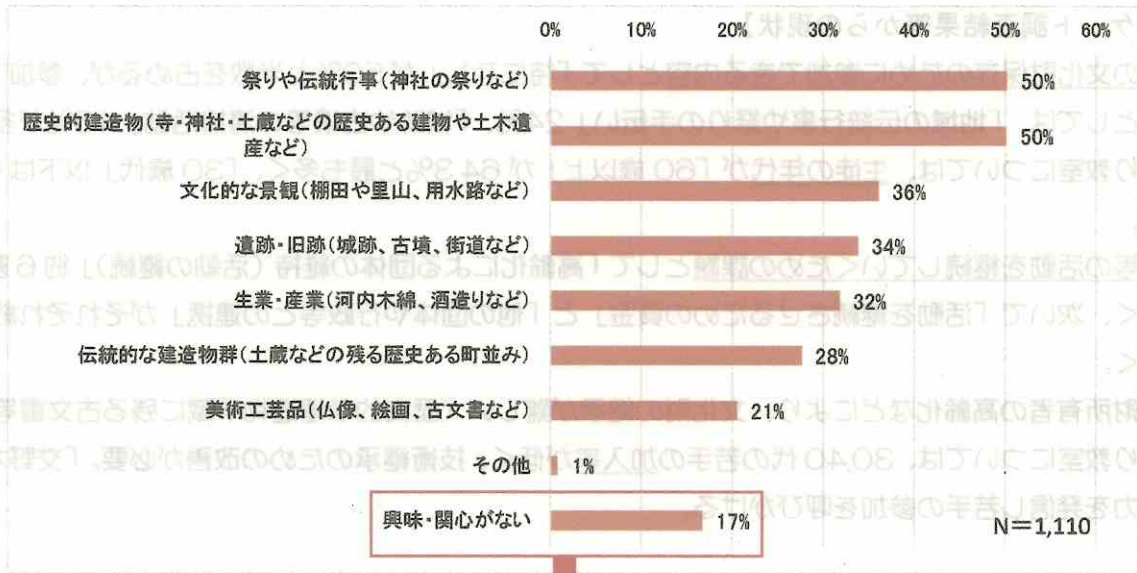


★情報発信の充実（市民アンケート調査結果より／複数回答）

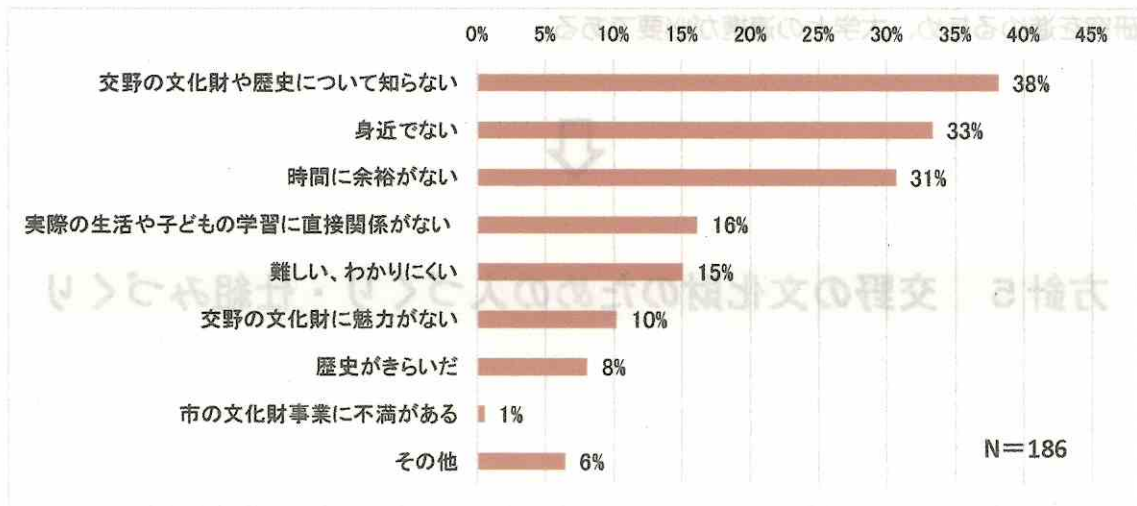
（答回数順）のち果該査問一でくて另市）由要（）交の問・和農（）観が区の内市、式若★



◆ 市内や地域の文化財に興味がある文化財 (小学校アンケート調査結果より/複数回答)



◆ また、市内の文化財に「興味・関心がない」理由 (小学校アンケート調査結果より/複数回答)



整理 5

【アンケート調査結果等からの現状】

★地域の文化財保存のために参加できる内容として「特になし」が50%と半数を占めるが、参加できる内容としては、「地域の伝統行事や祭りの手伝い」24%、「城跡や古墳等の清掃活動」15%が多い。

☆機織り教室については、生徒の年代が「60歳以上」が64.3%と最も多く、「30歳代」以下は0%である。

☆団体等の活動を継続していくための課題として「高齢化による団体の維持（活動の継続）」約6割が最も多く、次いで「活動を継続させるための資金」と「他の団体や行政等との連携」がそれぞれ約4割と続く。

☆文化財所有者の高齢化などにより、文化財の継承が難しい（歴史的な建造物や蔵に残る古文書等）。

☆機織り教室については、30.40代の若手の加入率が低く、技術継承のための改善が必要。「交野木綿」の魅力を発信し若手の参加を呼びかける。

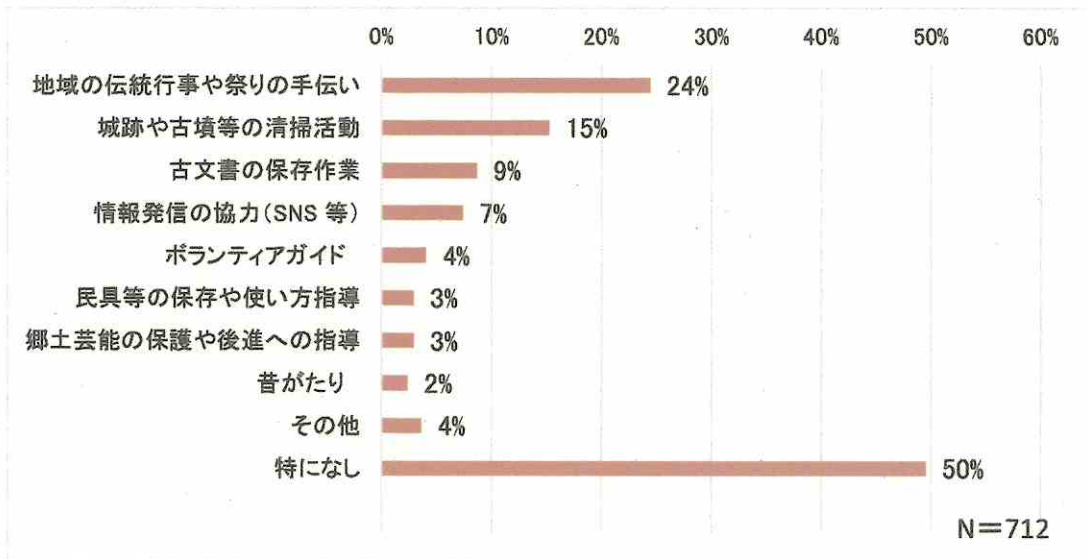
【課題】

- 文化財所有者の高齢化などへの対応が必要である。
- 活動団体の高齢化による担い手不足に対応する必要がある。
- 交野市と連携したイベント以外にも連携エリアを拡大する必要がある。
- 学術研究を進めるため、大学との連携が必要である。

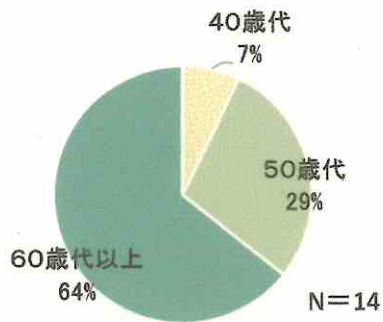


方針 5 交野の文化財のための人づくり・仕組みづくり

★地域の文化財保存のために参加できる内容（市民アンケート調査結果より／複数回答）

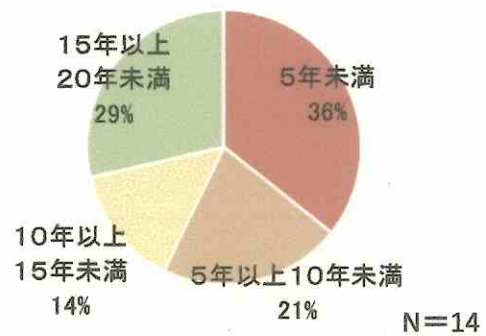


☆機織り教室の生徒の年齢



<参考>機織り教室の参加年数

(機織り教室アンケート調査結果より)



序章 はじめに

■ 計画作成の背景・目的

「交野市市民憲章」は「和（自然と・文化と・人と）」と定められ、その目的として交野が古くから多くの人々に愛されていて、この良さを活かして、さらによりよい交野を求めようとするものである。

しかし、市民アンケートの結果によれば、交野の自然に強い関心が寄せられているものの、その自然によって育まれた文化、中でも伝統や歴史などの歴史文化については必ずしも高い関心が寄せられてはいない。

特に、各地域が主体となって長年受け継いできた歴史文化は、人口の減少や少子高齢化による担い手の減少などに伴い、滅失等の危機に瀕しているものも少なくない。このような状況を改善し、市民に交野の歴史文化に興味をもってもらいたいため、この計画を策定するものである。

本市では市内に残る文化財の保存と活用之际して、各種文化財の悉皆調査をはじめ、交野市立教育文化会館（歴史民俗資料展示室）における常設展、企画展、特別展、スポット展や市広報等による情報発信、市主催の歴史講演会や歴史フォーラムの開催、「交野市文化財だより」等の文化財関連冊子の配布や販売、市内小学生の体験学習など、さまざまな取り組みを推進してきた。

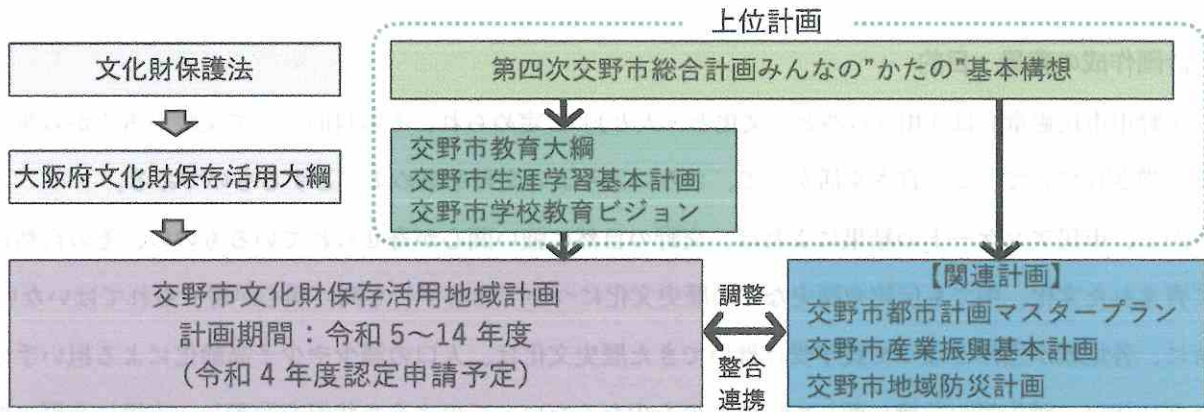
これらの取り組みの積み重ねにより、交野の歴史文化や文化財の把握、研究について一定の成果をあげ、市民の歴史や文化財に対する関心度も徐々に、高まりつつあるといえる。

教育委員会では、豊かな自然や、その自然に育まれた「交野の文化財」を将来に継承するためには、地域や市民の文化財に対する理解が大変重要と考えており、そのためには、従来の保存から活用を図ることにより、文化財への愛着と郷土意識の醸成を促進するため、その指針となる『交野市文化財保存活用地域計画（以下「本計画」という。）』を策定する。



郷土史家片山長三氏が描いた奈良時代の交野（修復が必要） 「交野の文化財」候補

■ 計画の位置づけ



■ 計画期間

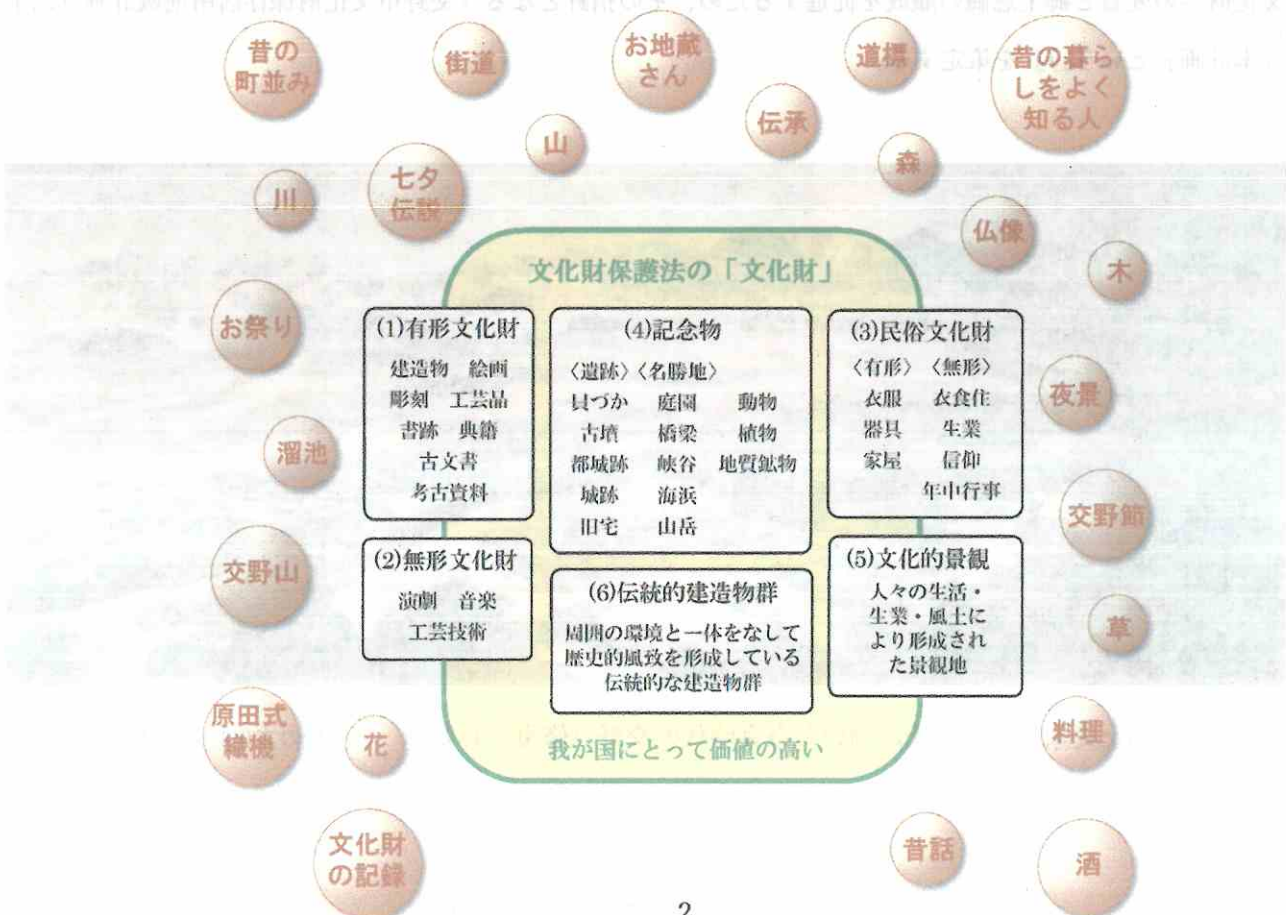
本計画の計画期間は令和5年度～令和14年度の10年間とする。

なお、社会情勢等に大きな変化が生じた場合には、必要に応じて適宜見直しを行うこととし、計画の変更が必要な場合には文化庁長官による変更の認定を受け、また、軽微な変更の場合には大阪府を通じて文化庁へ報告することとする。

■ 計画の対象

計画の対象は、「交野の文化財」とする。この「交野の文化財」は、交野の自然やこれまで残されてきた先人の文化的活動によって生み出された有形・無形の事物や事象で、国、大阪府、交野市により指定等を受けている文化財をはじめ、未指定のものであっても各地域のなりたちを考える上で価値が高い文化財等や地域の中で継承されてきた自然、文化活動、伝統的な歌や踊り、伝統産業、景観等を含めたものとする。

交野市文化財保存活用地域計画で捉える「交野の文化財」



第1章 交野市の概要

■ 位置

大阪府と奈良県の県境に位置し、大阪・京都・奈良にも近いため、古来より古都の影響を受けている。

■ 地理的な特徴の概要

市域の南部から東部にかけては、風化の進んだ花崗岩類からなる交野山地が占める。また、市域の中央部を流れる天野川には、山地から派生する丘陵がのび、その丘陵の狭間を流れる小河川がそそぎ、天野川水系を形成している。集落や水田域などは丘陵上に立地するという地理的特徴をもっている。また山岳部あるいは丘陵部には、交野山頂上をはじめ、花崗岩の巨石の露出が多くみられる。また、それら巨石によって降臨神話や降星伝説が形成されることも交野の特徴である。

■ 街の特徴の概要

昔ながらの趣を残す集落と、新たにつくられた住宅地とが共存し、自然との調和も大切に図りながら、落ち着いた町の雰囲気をかもし出している。大阪や京都などの大都会にも近く、ベッドタウンとしての役割とは別に、週末には豊かな自然をめざす多くのハイキング客でにぎわう側面も備えている。

鉄道網は古くから発達し、近年では第二京阪道路の開通により、市内に交野北および交野南インターチェンジが配置され、交通の利便性は格段に向上し、さらに流通関連産業が盛んとなったことも交野の新たな特徴と云える。

■ 歴史的背景

市域の約半分を占める山々や天野川の上流に見られる溪谷など自然豊かな地“交野が原”は、古墳や城跡、古い町並みも良く残り、自然に歴史文化が溶け込み、「交野の文化財」の特徴となっている。

- ・旧石器時代では、石器生産地として布懸遺跡が著名で、神宮寺遺跡からもナイフ形石器が出土している。縄文時代では神宮寺遺跡の押型文土器が、標識土器となっている。弥生時代前期、私部南遺跡では竪穴住居が確認され、早い段階から稲作が定着したといえる。
- ・古墳時代になると標高 100m を超える丘陵上に森古墳群が出現する。この頃の交野は、我国有数の鉄鍛冶生産を生業とする集団が存在した。森遺跡は生産遺跡としての様相を示し、私部南遺跡や上私部遺跡は当時の大規模集落である。
- ・飛鳥時代になると、郡津地区に古代寺院等が建設され、平安時代まで交野の中心として栄える。
- ・平安時代後期になると岩倉開元寺をはじめ、八葉連華寺、獅子窟寺、小松寺等の寺院と磐船神社と新宮山、星田妙見宮等の神社、そして観音岩、獅子窟、岩船などの巨石が合わさって、山岳宗教の様相を示す。
- ・私部城跡は戦国時代末期の城跡で、安見氏の居城として有名である。城郭として大変よく当時の特徴を留める。周囲には私部の古い町並みが広がり、私部城と関わりの深い「光通寺」や代官屋敷として有名な国重要文化財の「北田家住宅」、国登録文化財の「山野家住宅」などが集中し、交野でも有数の「歴史ゾーン」である。近世には私部村の他に、郡津村・倉治村・寺村・森村・傍示村・私市村・星田村が置かれた。これらの近世村落は、現在の交野市の地区に継承されている。

■ 文化財の把握調査

① 実施済の調査

- ・市史 5 冊（通史編・民俗編・自然編 2・考古編）
- ・文化財地図 4 冊、郷土史 6 冊、古文書・美術工芸 26 冊、埋蔵文化財 34 冊、民俗文化財 5 冊、石造文化財 2 冊

② 今後必要な調査

- ・町並み調査（現在調査中）
- ・市史古文書史料編及び埋蔵文化財調査報告書（毎年）

第2章 | 交野の文化財の概要と特徴

■ 交野の文化財

・国においては文化財保護法、大阪府では大阪府文化財保護条例、交野市文化財保護条例に基づき、国、大阪府、交野市にとって重要な文化財が24件、登録文化財が4件指定されている。特に、国宝薬師如来坐座像（獅子窟寺）、国指定重要文化財阿弥陀如来立像（八葉蓮華寺）など、山岳信仰に由来する文化財が多いことが大きな特徴である。また、近世村落から引き継がれた町並みの中に、北田家住宅、山添家住宅の2つの国指定重要文化財をはじめとした文化財が継承されてきた。一方、調査中のものなどで指定に至っていない未指定文化財は363件ある。

[表1：指定文化財件数一覧]

類型		国指定など	府指定など	市指定など	国登録	府登録	市登録	合計
有形文化財	建造物	3			4			7
	美術工芸品	2	2	14				18
無形文化財								-
民俗文化財	有形							-
	無形							-
記念物	史跡		2	1				3
	名勝							-
	天然記念物							-
伝統的建造物群								-
文化的景観								-
合計		5	4	15	4	-	-	28

[表2：未指定文化財地区別件数一覧]

類型		星田地区	傍示地区	寺地区	森地区	郡津地区	倉治地区	私市地区	私部地区	合計
有形文化財	建造物									-
	美術工芸品	96	9	20	29	37	40	24	82	337
無形文化財					1			1	1	3
民俗文化財	有形	1		1	1				1	4
	無形	3	1	2	2		4		3	15
記念物	史跡			3	2	2				7
	名勝									-
	天然記念物									-
伝統的建造物群										-
文化的景観										-
合計		100	10	26	35	39	44	25	87	366

[表3 主要な未指定文化財等]

地区名	未指定文化財	地区名	未指定文化財
寺地区	鍋塚古墳など	私市地区	きさいち踊り（交野節）など
郡津地区	明遍寺石仏群・丸山古墳など	私部地区	陸渡御・住吉神社大鳥居など
森地区	石清水祭など	星田地区	慈光寺十三仏など
傍示地区	石造物群など	各地区	だんじり
倉治地区	十六善神像・観音岩など		菜の花寿司などの郷土料理

第3章 | 交野の歴史文化の特色

交野市では特徴的な6つの歴史文化を抽出し、それに合うものを「交野の文化財」と呼ぶ。

① 交野の王墓と鉄器生産

- ・古墳時代の交野の王墓が森・寺地区に継続して造営されている。
- ・王墓に接して鉄器生産遺跡の森遺跡があり、全国的にも有名。

② 天野川と七夕伝承

- ・天野川の下流は、上流と様相を一変して直線的で穏やかな流れとなる。その白砂清流の情景を平安歌人は「狩り暮らしたなばたつめに宿からむ天の河原に我は来にけり」と天上の天の川に例えて詩を詠み、近世の儒学者貝原益軒は獅子窟山から眺めて「・・あたかも天上の銀河の形の如し・・」と表している。天野川下流域の様相は「七夕伝承」として地元に着し、毎年7月7日には機物神社で七夕祭りが開催される。
- ・松塚に交野郡司の娘が交野少将に失恋したため天野川によってできた淵に身投げした時の歌も伝わる。

③ 山岳信仰と巨石文化

- ・平安時代後期になると交野山山頂の岩倉開元寺をはじめ、山岳部に仏教寺院の建立が始まる〔八葉蓮華寺（傍示）、獅子窟寺（私市）、小松寺跡（星田）〕
- ・さらに神社も竜王山山頂の八大竜王社をはじめ、山間部の人里離れた地に見られる。〔磐船神社、星田妙見宮〕。これらの宗教施設は、神仏習合の動きと山間部に露出する巨石を信仰の対象とする山岳宗教が合わさって、修験道として発展する。

④ 私部城と安見氏の活動

- ・安見氏の居城である私部城は、残存状況も良く市指定史跡として保存されている。城は東高野街道などの主要道に通じる要衝としての私部を押さえ、周辺の寺院（光通寺・無量光寺）には城主・安見氏の記録が色濃く残る。交野の安見氏の活動はその後、伊予（愛媛県）・加賀（石川県）にもつながっている。
- ・安見氏の活動は星田の妙見宮や新宮山でも確認され、その後、徳川の時代を迎える。大阪夏の陣では、星田に徳川家康の陣が置かれ、その足跡は後世に語り継がれた。

⑤ 交野旧八村と伝統的町並み群

- ・市内には古民家（重要文化財北田家住宅、山添家住宅など）、土蔵、路地などの江戸時代になって形成された古い町並が多く残され、近世以降の造酒屋も現存している。新興住宅地と区分けされた都市計画のもと古い伝統的なまちなみ旧集落に残っていることも交野の特色の一つと云える。

⑥ 交野の近代産業と現代

- ・近世より盛んに営まれてきた河内木綿の生産を原田元治郎は明治40年（1907）に原田式力織機を開発し機械化に成功した。さらに改良を加えタオル織機も考案し、繊維産業の発展に大きく貢献した。埜辺丑治郎は大正5年（1916）に歯ブラシ工場を建設する。それらで製造された産物は米などと合わせて明治31年（1898）に開通した片町線（現在の学研都市線）によって各地に出荷された。
- ・金澤泰治は大正11年（1922）に交野無尽合資会社を設立し北河内でいち早く銀行業を開始。その建物はそののちに交野町に寄贈され、現在は歴史民俗資料展示室として活用している。
- ・西村忠逸は大正12年（1923）の大風により被害を受けた私市地区の水田の復興のため、水利組合を設立して、水路を再整備するなど尽力した。その水路は現在も使用されている。

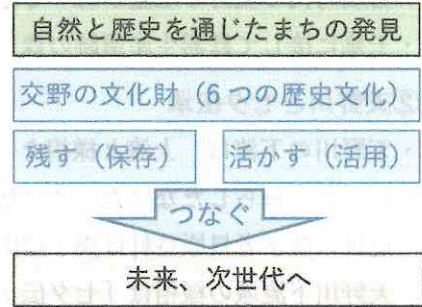
第4章 | 「交野の文化財」の一体的・総合的な保存と活用

■ 基本理念

本計画の保存と活用の基本理念を以下のように設定する。

自然と歴史を通じたまちの発見

～残して、活かそう交野の文化財、
つなごう未来、次世代へ～



■ 関連文化財群

交野の歴史文化を色濃く示す文化財群。6つの文化財群を設定する。

- ①古墳時代の関連文化財群 (森・車塚・寺・倉治古墳群、清水谷古墳・森遺跡・私部南遺跡など)
- ②天野川・七夕伝承の関連文化財群 (天野川・機物神社・妙見宮・長宝寺跡など)
- ③山岳信仰の関連文化財群 (八葉蓮華寺・獅子窟寺・磐船神社・妙見宮)
- ④私部城跡の関連文化財群 (私部城跡・新宮山・小松城跡など)
- ⑤近世町並の関連文化財群 (北田家住宅及び山添家住宅と旧八村の町並み群)
- ⑥近代産業の関連文化財群 (教育文化会館・青年の家・天野川及び尺治川土木遺産)

■ 文化財保存活用地区

東西・南北約700mの範囲(赤線)を設定。

■ 中核となる文化財

- ・私部城跡・北田家住宅・山野家住宅・光通寺・無量光寺・想善寺・私部地区の町並み

■ その他の文化財

- ・住吉神社大鳥居・私部街道・御旅所、原田式織機工場跡

■ 展示・パンフレット配布場所

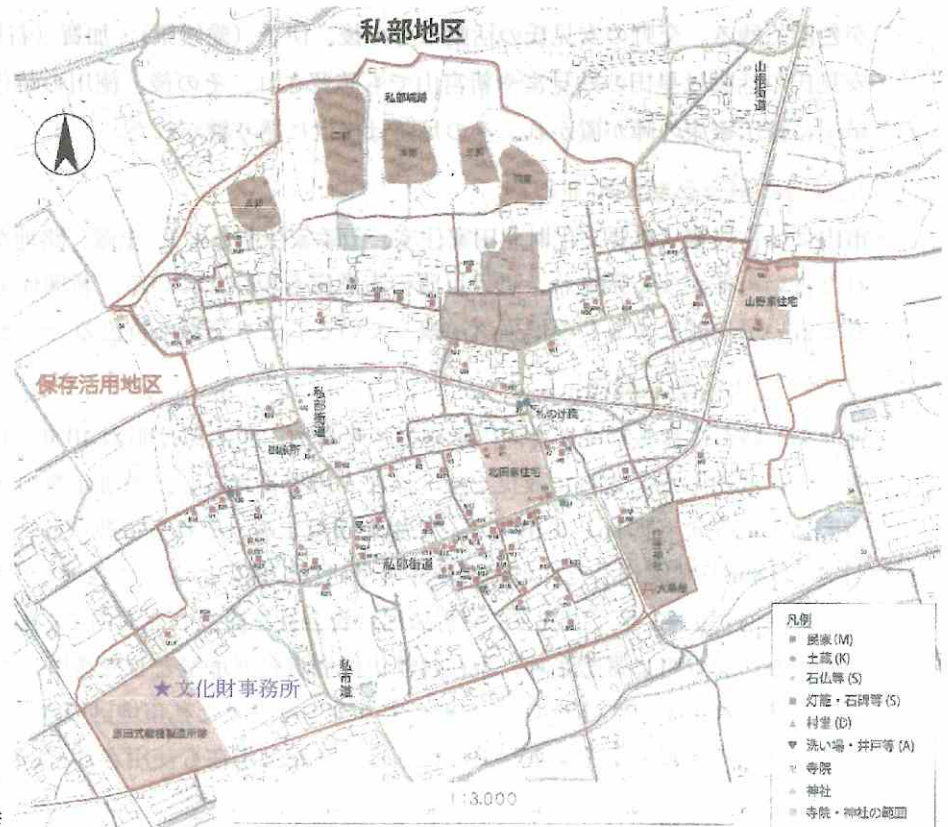
- ・青年の家文化財事務所の活用

■ 関連計画

- ・都市計画マスタープラン

■ その他

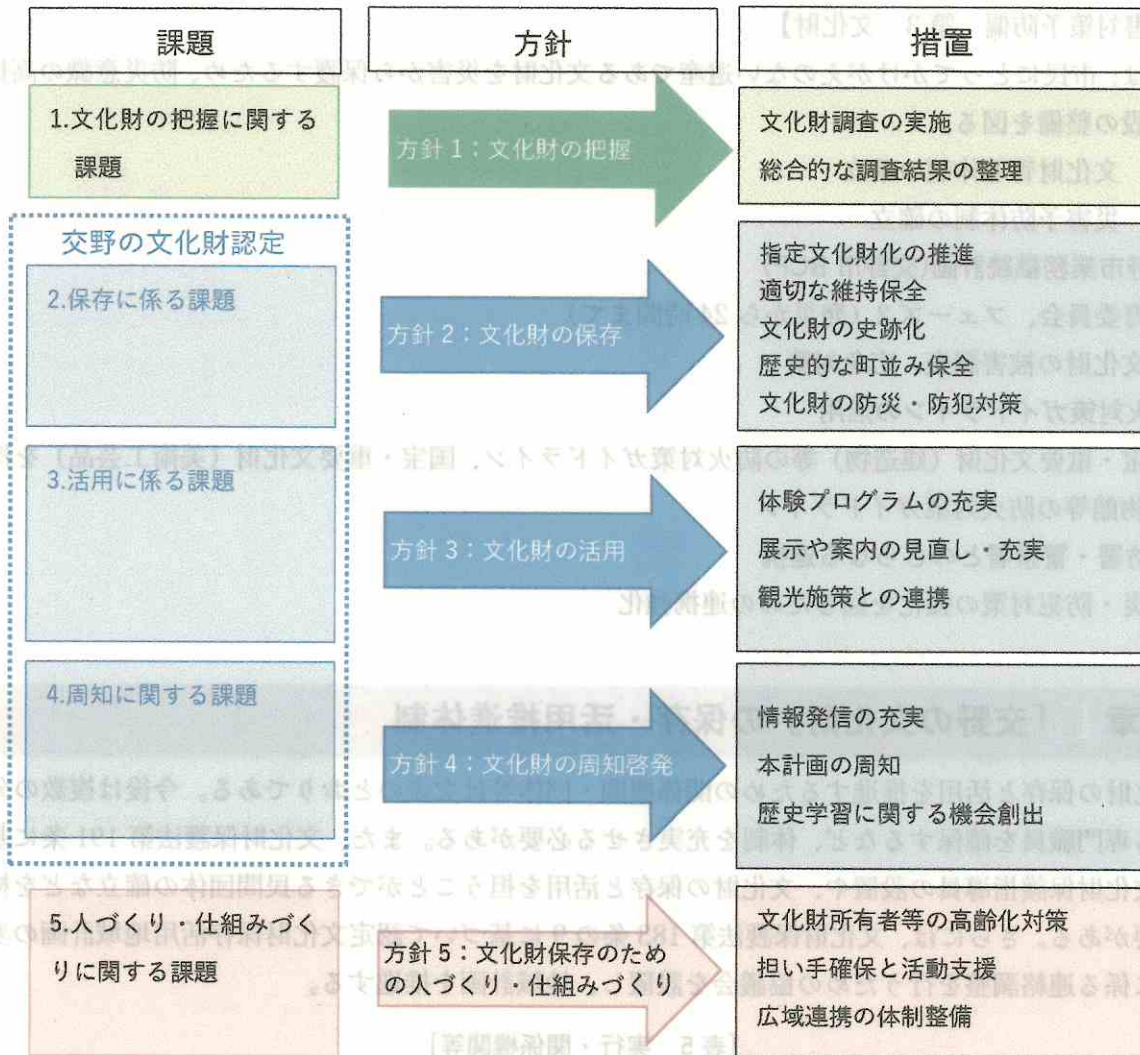
星田地区、倉治地区、郡津地区、いわふね地区(私市・森・寺)、傍示地区なども将来的に検討する対象地区。



※ネット公開時には民家土蔵は抜く

第5章 「交野の文化財」の保存・活用に関する方針と措置

基本理念の実現をめざした保存・活用の課題と対応方針、措置は下図のイメージに示す。



[表4 課題の整理]

課題	現状・アンケート・ヒアリング等
1.交野の文化財の把握に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の文化財について調査及び基礎情報の整理が必要 ・ 文化財のデータを体系的に整理・管理が必要 ・ 文化財の総合的な再整理が必要
2.交野の文化財の保存に係る課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未指定の文化財等が滅失しないように、指定・登録の必要性の検討が必要 ・ 文化財の維持・保存、記録、防災対策等の状況の把握、適正な維持保存の実施 ・ 古墳等の史跡化・展示の実施 ・ 災害・盗難等への対策、連絡・対応の体制整備、防災訓練の実施等
3.交野の文化財の活用に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代の興味・関心を高めるプログラムの見直し ・ 観光への展開を図るため、見学者や来訪者の受け入れ体制の整備
4.交野の文化財の周知に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代に継承するための周知の取り組み ・ ホームページや広報等による情報発信の方法や内容を見直し ・ 市民の文化財の保存・活用に関する理解を深める
5.人づくり・仕組みづくりに関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財所有者の高齢化などへの対応 ・ ボランティアガイドの高齢化による担い手の不足への対応 ・ 枚方市との連携のほか、連携エリアの拡大

第6章 | 「交野の文化財」の防災・防犯

■ 交野市地域防災計画

【災害対策予防編 第3 文化財】

市は、市民にとってかけがえのない遺産である文化財を災害から保護するため、防災意識の高揚、防災施設の整備を図る。

1. 文化財管理体制の確立
2. 災害予防体制の確立

■ 交野市業務継続計画(交野市 BCP)

教育委員会、フェーズ2（発災から24時間まで）

- ・文化財の被害調査、応急対策

■ 防火対策ガイドラインの活用

国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン、国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン

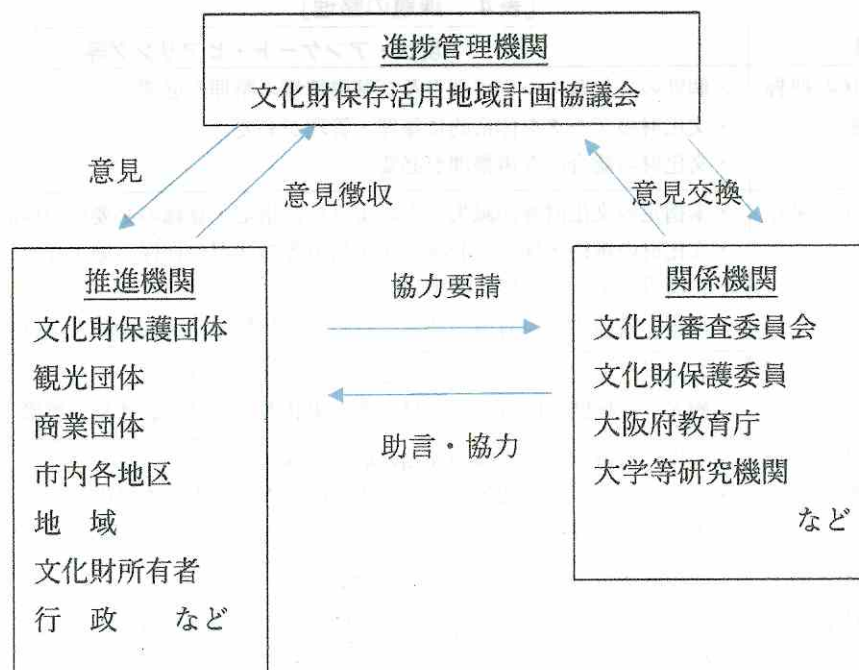
■ 消防署・警察署とのさらなる連携

防災・防犯対策の強化を図るための連携強化

第7章 | 「交野の文化財」の保存・活用推進体制

文化財の保存と活用を推進するための関係機関・団体等は次表のとおりである。今後は複数の分野にわたる専門職員を確保するなど、体制を充実させる必要がある。また、文化財保護法第191条に基づく市の文化財保護指導員の設置や、文化財の保存と活用を担うことができる民間団体の確立などを検討する必要がある。さらには、文化財保護法第183条の9に基づいて認定文化財保存活用地域計画の変更や実施に係る連絡調整を行うための協議会を設置し、地域計画を推進する。

[表5 実行・関係機関等]



[順不同]